



国技「相撲」を楽しむ

会員 姫野 博昭 < 53期 >

■私と相撲

私が、相撲をこよなく愛する理由の1つとして、私が幼い頃から尊敬して止まない大横綱の存在がある。69連勝という不滅の記録を達成したことで有名な35人目の横綱「双葉山定次」である。

私は、祖父の影響もあり、幼い頃からよくテレビで相撲観戦をしていた。次第に、大相撲の歴史などにも興味を持つようになり、図書館などで相撲の本を漁って読むようになった。その際、必ず、歴史上の名場面として取り上げられているのが、昭和14年春場所4日目に、69連勝中の双葉山が平幕の新鋭・安芸の海に外掛けで敗れるという大一番である。そして、その名場面と一体として語り継がれている出来事が、双葉山が敗れた直後に「イマダ モッケイタリエズ」との電報を心の師に宛てたこと（「木鶏」とは、中国の古典「莊子」の鬪鶏の話に出てくる言葉。木で作った鶏のように、如何なることにも動ずることのない、鬪鶏の理想の姿のこと。双葉山が目指していた境地である）。負けて、一瞬でも動揺した自身の心を戒め、恩師に更に教えを請う、常に無心を追求した人間としての双葉山の生き方に、幼いながら、強い感銘を受け、以後、双葉山は、私の人生のお手本になった。

双葉山にまつわる逸話は数知れず、右目が全く見えないという力士としては致命的なハンデを背負いながら、相手が立てばいつでも受けて立つ、生涯待ったも変化もなし、無心の土俵態度。双葉山との出会いもあって、私は大相撲の魅力に取り憑かれ、以来、私の生活から切り離すことのできないものになっている。

■相撲の魅力

相撲という競技の魅力について申し上げますと、体重別ではないという点あげられる。小さい者が大きい者を投げ飛ばすという、武道の醍醐味が、相撲の大きな魅力の1つであろう。また、あの髷を結ったスタイルも魅力の1つ。冷静に見ると、スポーツであるスタイルは大変滑稽である。しかし、これが他のスポーツとは異なり、歴史と伝統と作法を重んじている国技相撲の大きな魅力なのである。

■今こそ、相撲観戦に行こう！

若貴人気も通り過ぎ、相撲人気も下火と言われている今こそ、本場所を観戦できるチャンス。そこで、私の考えた両国国技館相撲観戦、お勧めコースをご紹介します。

- ①まず、午前中は、国技館のお隣、江戸東京博物館で江戸時代の東京を堪能。時間があれば、回向院境内等、近隣を散策し、歴史も堪能する。
- ②国技館へ入場後は、国技館内でしか味わえない相撲弁当などを食するのもよい。国技館でしか手に入らない人気力士のグッズなども沢山売られている。
- ③序盤は、幕下力士の取り組みを見て、将来の大器、お気に入り力士を捜すのも楽しい。また、花道を覗けば、土俵に向かう際の緊張した力士の顔や、引退した親方達を間近で見ることができる。
- ④幕内土俵入りが始まる前には、1階の「相撲博物館」もぜひ見て欲しい。場所毎に特集が生まれ、展示物も変わる（先場所は、大鵬、柏戸の特集であった）。
- ⑤熱戦を堪能した後は、正面入り口で、お帰りの閑取衆を見物。お目当て力士を間近で見ることができる。シャッターチャンス！
- ⑥最後は、両国のちゃんこ屋で締めくくり。

■「法曹相撲倶楽部」結成

こんな、相撲おたくの私だが、同様の相撲おたく弁護士等数名で、相撲愛好家集団「法曹相撲倶楽部」を結成し、定期にちゃんこ等食べては、相撲談義を楽しんでいる（写真）。興味のある方は、お声を。



写真中央が筆者